

なに簡単に直る物じゃないと言いたくなります。崩れる子供、崩れる学校、本当に恐ろしいなと思います。そこに精一杯先生方がやればやるほど勢いが強くなって崩れる場面もあります。先生方には申し訳ないと思う場面もありました。そして子供達と一緒に悪いこともしてみました。盗んだネクタイピンを卒業記念に貰った。「ありがとうな、一生の宝にするぞ」と言わなければならない子供もいます。子供をバーに連れて行って酔っぱらって色歌を歌って子供に手拍子をさせました。「絶対言うな言うとな首になるからな」といいながらも校長にばらされて叱られてたこともありました。子供達なりにそれぞれの悩みがあります。こういったなかでごく一部の子供達によって日本の教育も大分狂っていることも事実でございます。こういった点で教師の力のなさを弁解している訳であります。なかなか難しい物だと言うことをもう一度皆さんにお伝えしておきます。こういった状況の中で大人達の幼児に対する虐待も増えていくだろうと思います。あるいは夫婦の意見が合わなくなって離婚する。会議で初めて覚えました。離婚というのは幸せなことなんだ。「離婚」この言葉だけで何か惨めだという感じでしたが、現在よりも未来に幸せになるためにお互いに話し合っ別れた、これは幸せな離婚なんだという考えだそうです。私もそういう考えになるかと思いますがなかなかまだついていきません。こういった中で学校制度において我々が力の無かったこともあります。子供達はどんどん大きく悩みを持って学校生活を送っていることが事実です。義務教育という名目のなかである面では子供が犠牲になっているんじゃないかなという面がいっぱいあります。忙しい生活の中で子供と30分も接することができない。保育制度や塾を批判する訳ではありませんがそういった世の中になっていることが事実です。親として出会った、親子として出会った、夫婦として出会った日本のこの家庭というものが本当に家庭なのかどうか疑問を感じます。ひとしずく3億5千万位の精子、一生に約500個位の卵子、こういった中での生命の出会い、親子の出会い、そして育てている。1日24時間の中、家族と1時間の時間が持てるかどうか、その1時間の中の会話がどの程度なのかと考えたとき、子供を学校から家庭に戻すような運動が起こらなければならぬ。こういうことから学校週5日制ができたのではないかと思います。140万種の生命体の中で1番へたな子育てをやっているのは人間でないか。その中でも文化生活といわれ、経済的に豊かな日本の家族ではないかと思いますがいかがでしょうか。塾になんかやらないで子供と接する事を多くして欲しい。学校から子供を取り返して欲しい。自分の家でなんとかやって欲しい。極論を申し上げますが今の子供達が大人になってお父さんお母さんになったとき、漸く学校5日制が日本に根を生やすんではないかと思ひます。退屈したら親子で考えて何かをする。そんなことが家庭教育ではないかと思ひます。こういった家庭を実は日本でもすでにやっておりました。7千年位前紀元前5千年縄文時代に苦しい生活の中で生命のリレーが繋がる中で親子で助け合い隣近所と助け合いながらすばらしい縄文の文化が育ちました。遅いお父さん方、助け合ったり思い合ったりする心の通い合う家庭教育を展開してください。ご静聴ありがとうございました。さようならさようなら椰子の島の歌声で卓話は終わりました。

齊藤正君 星野校長先生いろいろご予定のあるなか、曲げて卓話をお引き受けいただき有難うございました。

中條耕二君 三中の星野校長先生、新入会員の笹原さん、同じく見附R・C会長の笹原会長さんのメイクアップ、三条RC広岡さん、心からご歓迎申し上げます。

早川龍雄君 先月28日、母の葬儀には大勢の会員から御焼香いただきありがとうございます。又、山中さんには色々お世話になりました。

ロータリー財団：

今井克義君 米山財団委員長に敬意を表して。

安田貞夫君 財団に協力して。

米山忠俊君 財団御協力ありがとうございます。

新入会員入会式：

新入会員 プロフィール：

氏 名 笹原 壯玄

生年月日 昭和17年8月25日

会 社 名 本成寺塔頭 要住院

役 職 名 住職・本成寺保育園理事

会社住所 三条市西本成寺1-14-72

TEL 33-1886

FAX 38-1614

自宅住所 同 上

家族構成 広子（妻）ヒミ（母）奈津子（長女）三笑子（次女）



卓 話： 三条市立第三中学校校長 星野健蔵 様



清々しい、懐かしいメロディで始まりました。

越後の里に秋が巡ってまいりました。皆さんこんにちわ。本年度三条第三中学校に寄せて頂きました、星野健蔵と申します。

昭和19年11月に長岡の地に生まれ長岡の地に生い育ちました。36万種の職種のある中でどういう訳か教育というものにつくことができました。それ以来今年度35年目を迎えております。三条第三中学校で子供たちから、1番足が長くてカッコいい男の先生と言われております。三条第三中の子供は「いい子供だなあ」と思っております。いじめと

というのが大学、高校、中学、小学校、幼稚園まで、そしていま、保護者が教師をいじめているそうです。ところが第三中学校では第三中学校後援会組織がありました。その中に斎藤正という悪者が居りまして、早速私の所に来まして、「どうか30分話をせよ」という訳であります。最初お会いし

たときは、おとなしい、ものやさしい、物わかりの良い、いい初老の方かななんて思ったところが、何をお話ししてみたら、このようにいじめにあって本日この席でお時間を頂くことになりました。ご尊顔を拝見いたしますと人生の荒波をくぐったり、抜け出したり、あるいは隠れて生き残ったりそんな人生の先輩たちの面々でございます。そこで私が何だかんだ申し上げても屁の河童、怖くもない、感動など全くないんじゃないかと思いますが、そういうことを覚悟して長い人生の中の30分を私に時間泥棒をさせて頂きたいと思っております。よろしく願いいたします。生来無学でございます努力もしておりません。そんな点で申し上げる前に弁解をしておきます。小栗上野介美作という侍がいたそうですが、「俺の今日言う事は明日変わるかもしれません」というような内容でありました。私も日々前進したいということで今日申し上げたことは、今日でご破算にして頂きたい。間違いもでたらめも好き勝手な事を申し上げます。時にはムカッとする点もあるかと思いますが、お許し頂きたいと思います。教育の関係ですので、教育に関する事を一番退屈な話になりますがさせていただきます。いよいよ来年から学校5日制が実施されます。それでなぜ学校5日制なのかということを、私なりに皆さんに叫んでみたいなあと思っております。ある教育者は学校週5日制は第3の教育改革と申しております。第1は明治5年学制発布でございます。税金の納めた人、あるいは身分等がありながら、義務教育ではありませんが日本で漸く、学校制度がしかれた。そして第2次世界大戦の悲しい足跡の後、民主化ということで6・3制の義務教育がスタートした。そして平成14年度、来年4月1日より学校週5日制が行われるということでもあります。長い歴史の中で日本は漸くここまで辿り着いた状況であります。一つだけ教育に携わる者として皆さんに自慢したい又皆さんから納得して頂きたい事があります。明治以来、このように日本国民又、教育に携わる者等精一杯努力したなかであります。先回の阪神大震災、大変なことで6000名の日本人が亡くなった訳でありますがあの時、総理の動きが悪かったとか色々ありました。ボランティアは頑張ったとか等々善し悪しもあっただろうと思いますが、あそこで何故暴動が起こらなかったのか。多少泥棒とか、火付けとかあったのかも知れません。しかしよその国と比べれば、あの後、整然とした復興に取り組んだ、その力は何かという政治力、経済力もあるかと思いますが明治以来の日本の教育にあったのでないかと思います。そんな点でちょっとでもどこかの新聞で、片隅にでも、声のなかでも学校ありがとうとか先生ありがとうという物を聞きたかったと私は内心思いました。しかし未だかつてそれはありません。あるいはその後神戸の方で起こりました、O-157という事件がありました。原因が何かわからないという時に夜緊急のPTAをやりました。調理員の皆さん、並びなさい、皆さんの前で謝罪しなさい、というような考えを調理員は受けたようであります。以後、色々の片付けをやる、児童は休んでいる、遊んでいる、なんて言われるのがいやなので、全校児童の靴を洗ったという様な話も聞きました。そういった中でたとえ小さなコーナーでも声の中でも調理員さん日頃子供たちの為に心を込めて給食を作ってくれてありがとうという言葉が何故ないのかな。と、この辺でちょっと自慢と淋しさを申し上げます。明治以来の教育がい

よいよ来年から変わっていくという事であります。この改善の狙いは子供達に生きる力を育てるんだなんていわれております。ちょっとかたぐるしくなるかと思いますが改善の狙いの趣旨を4つばかり読んでみます。この4つはいい趣旨なんですけれども、逆なんだということを最近気づきました。

①豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚の育成。この逆なんだからこうしたいんだ

②自ら学び、自ら考える力の育成。日本人は自ら考えていないということになる

③ゆとりある教育活動を展開するなかで基礎基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実。今の教育は基礎、基本を教えていない、個性を生かしていないという考え方を教師はしなければならない。

④各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりの推進。いまだかつて教師特に校長は給料ばかり貰って特色ある教育、特色ある学校を作っていないんだ

という叫び、声なのかも知れません。そういったことで子供達が自ら問題を見つけ、自らやり方を考え、自ら努力して解決して、決断をくだすような逞しい子供を育てるというような方針にきりかえて教師一辺倒でこれも覚えれ、あれも覚えれというような教育から変わっていくんだと言うことであります。当然そういった子供達を育てるんだから子供達には子供達なりに自己責任というものを持たせながらこれからの教育は変わっていくんじゃないか。表向きの方針であります。私自身このように考えていますが、皆さんいかがでしょうか？後でおしかりを頂きます。こういった方針の中で変わる訳ですが何故こんな風に世の中が変わっていかねばならないかということでもあります。現実の学校教育の中味を紐解いてみたいと思っております。100人が100人そうだということではありませんごく1割の子供達がそういった問題を起こしていることが現実であります。新聞等から集めてみますと平成12年度小中高等学校でいじめは30,900件。不登校の生徒が13,4000人。おそらく上越市位の人口かなと思います。中学校で平均すると38人に1人、40人学級といわれていますが1学級1人位の平均だそうです。又暴力行為が40,400件そして高校中退が約109,100人、三条高校が1,600人とすると1年間に三条高が90校分なくなる人数が全国で途中退学をしているそうです。又自殺者は全体（大人も子供も含めて）30,226人、1日平均83人、47府県ですから各県1日2人ずつ亡くなっている。こどもの非行、問題等の数ですが、この数に合わせながらも色々な子供達の非行、性犯罪、幼児等の巻き込まれて殺人等が繰り返されている日本です。いわんや悪いですが、我々大人の方はもっともっと色々な問題を起こしています。そういった中で私自身も崩れる学校、崩れる学級のようなものを見てきました。校長としてなんとか頑張りたいんだがと思ってもなかなかできません。私はこのようにしてヤーサンから暴れん坊子供を立ち直らせたというような事例等も良く聞きますが私は嘘を言うなど言います。そんな簡単に子供を救われるものじゃない。非行少年、オヤジ狩り、援助交際をこのようにして直したというような例も聞きますが、そん